

視覚障害教育研究部弱視教育研究室一般研究報告

弱視児の個に応じた指導内容・方法および支援に関する研究

目 次

序	49
I 弱視学級および弱視通級指導教室の実態調査からみた弱視児指導の状況	51
II 医療機関との連携による早期教育相談と個に応じた支援	67

序

弱視児童生徒は、一人一人見え方の状態が異なっている。また、“弱視”ということば自体が理解されにくい側面がある。弱視教育研究室では、この一人一人の見え方が異なる弱視児の発達支援や学習支援についての研究を一貫して行ってきた。

近年、各地で個のニーズに応じた弱視児指導の対応がなされてきている。盲学校を中心とした教育相談や学習支援、そして、弱視特殊学級（以下、弱視学級）の設置による個別指導の強化などである。しかしながら、地域によっては盲学校や弱視学級が設置されていないところもあり、また設置されていても点在しており、学校や担当教師間の有機的な連携が取れにくい状況に

なっている。当研究室ではこれら点在している弱視児への支援を、いかに有機的に図っていくかについて、これまで取り組んできた。

本研究は、弱視児指導の方法および形態などについて、弱視学級および弱視通級指導教室の現状を調査・分析するとともに、個に応じた発達支援、特に早期教育相談による医療機関等との連携のあり方についての実践研究をまとめたものである。

本報告にもあるように、視覚に障害がある子どもたちの指導等においては、盲学校が地域における相談・指導のセンター的役割を担い、近隣の弱視学級や通級指導教室が協力しあいながら、医療・福祉機関等との連携を構築することが急務である。